

カーボンニュートラルへの挑戦を通じて 環境への貢献と自社の成長を実現

2050年までカーボンニュートラルを目指す。
2030年までに再生可能エネルギー発電により、電力
使用量を削減し、限界利益当たりのCO2排出量を
2021年8月期比で5割以上削減する。

当社は、気候変動対策には、可能な限りカーボンプレジットを
活用せずに、自社で使用するエネルギーについて、自社で再生可能
エネルギーを発電することで、能動的に他社から供給された電気を
削減することが重要と考えています。

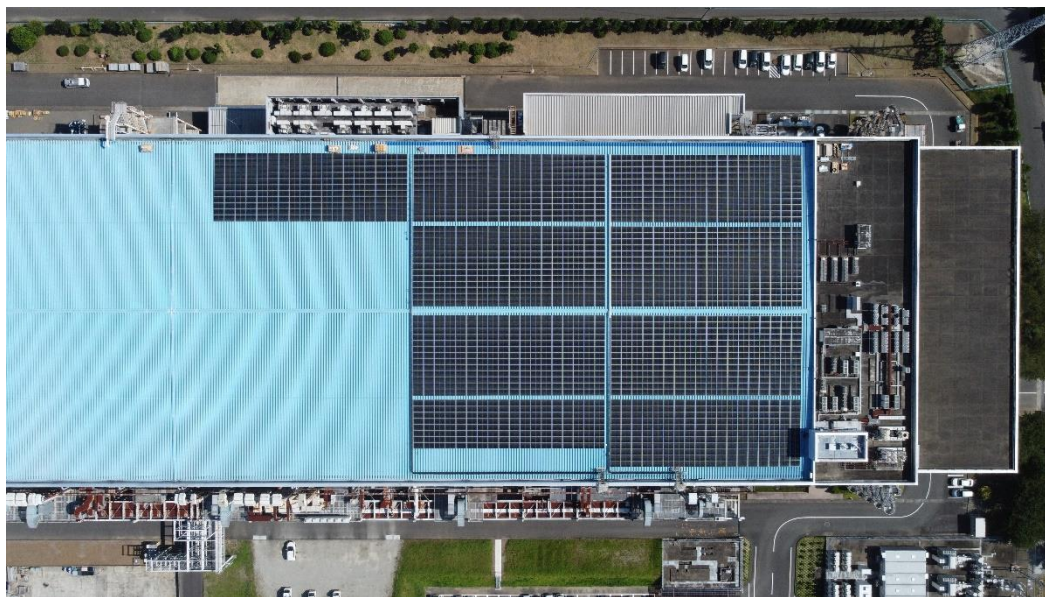
そのため、2021年9月に当社のカーボンニュートラルに向けた再生
可能エネルギー発電設備の長期投資計画を策定し、取り組みを開始
しました。

さらに、カーボンニュートラル実現に向けて、自社使用のエネルギー
(Scope1,2)削減だけでなく、自社事業活動に伴うGHG排出量
(Scope3)の削減が必要となります。Scope3削減に向けて、休日等
の余剰再生可能エネルギーを活用しリサイクルを進め消耗品の購入
量を削減することで、実質的なCO2排出量を減少させる方針です。
当社が製造業のモデルケースとなり、社会全体に普及することで、社
会全体のGHG排出量の削減に貢献することが重要と考えています。



カーボンニュートラルへの挑戦を通じて環境への貢献と自社の成長を実現

- 太陽光発電・蓄電池設備を段階的に導入し、自社で発電した電気により2050年までにカーボンニュートラルを目指します。
- 2030年までに限界利益当たりのCO₂排出量を2021年8月期比で5割以上削減します。
- 2026年までに、太陽光発電可能時間（9:00～15:00）の自社発電設備でのカーボンニュートラルを目指します。
- 2026年より蓄電池設備導入をすすめ、カーボンニュートラル時間帯を夜間にも広げていき、カーボンニュートラルを進めます。

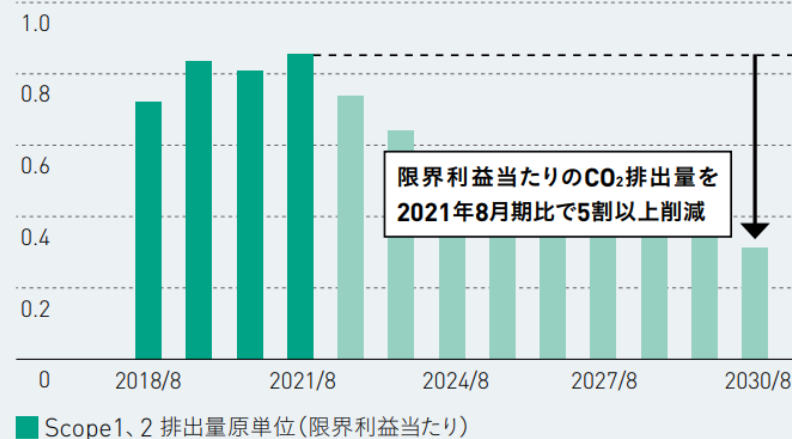


本社（出水事業所）屋根上の太陽光発電設備。
2022年9月現在 824kW(1800㎡)設置。2030年まで2300kWを設置予定。

全事業所に太陽光発電設備設置済み。段階的に設置拡大します。

限界利益当たりのCO₂排出量目標

(t-CO₂/百万円)



積極的な再生可能エネルギー導入により、2030年までに
限界利益当たりのCO₂排出量を2021年8月期比で5割以上
削減します。
2050年にはカーボンニュートラルを目指します。